

各ルートからの活動報告

国土交通省 東北地方整備局

【本日も報告いただくルート】

- 1 . のしろ白神の道……………P.2～4
- 2 . ふくしま浜街道ハッピーロード……………P.5～7
- 3 . みちのくおとぎ街道……………P.7～9
- 5 . 桑折宿まちなか街道……………P.9～11
- 9 . 青森エントランスロード……………P.12
- 16 . 越後米沢街道・十三峠……………P.18～20
- 18 . 十和田奥入瀬浪漫街道……………P.22

1.のしろ白神の道 (H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】のしろ白神ネットワーク
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】国道7号、国道101号
 【道路管理者】・国土交通省能代河川国道事務所
 ・能代市



のしろ白神ネットワーク構成団体



木の香る道づくりモデル地区



1.のしろ白神の道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

「のしろ白神の道」広報活動

【目的】

「のしろ白神の道」の取り組みや魅力について広く情報発信する。

【実施内容】

HPにて「のしろ白神の道」の活動やイベント情報を発信、道の駅ふたついの連携を目指しビューポイントパネル展の実施及び情報コーナーのリニューアルを検討。

【アピールしたいポイント】

OHPは四季毎に衣替えし、活動レポート・イベント情報を随時掲載。
 ○フォーラムや有識者会議提言をふまえ、道の駅との連携を模索・試行。



掲載内容
 ○活動レポート
 ○イベント情報
 ○ルート図
 ○活動目的等

▲のしろ白神の道HP

▲のしろ白神の道パンフレット



▲道の駅ふたついでビューポイント展

1.のしろ白神の道 (参考情報)

【活動名称】

「のしろ白神の道」後援イベント

【実施内容】

○ときめきマルシェ

月に一度能代市上町の工房咲く咲くにて、マルシェを開催。月ごとのテーマに沿ったイベントや農産物、飲食など様々な品物を提供。

○のしろまち灯り

能代市役所屋外にて約600個の秋田杉を活用した灯りや灯籠を点灯。出店や吹奏楽団の演奏など様々なイベントを開催。大会議室では木育コーナーを開設。

○嫁見祭り

旧暦4月の2番目の申の日の前日に日吉神社にて開催。会場では「お嫁さん」に因んだ和洋菓子販売や飲食店が出店。敷地内にある木都能代の父、井坂記念館は夜間も特別開館する。

【アピールしたいポイント】

○マルシェは毎週開催している朝市と夏に開催していた「のしろまち灯り」の発展形。出店者を増やし、一区画を歩行者天国にして開催。

○のしろまち灯りと嫁見祭りは「のしろ白神の道」主催から、より多くの市民有志が参画する実行委員会形式で開催するイベントに発展。



▲ときめきマルシェ



▲のしろまち灯り



▲嫁見祭り



1.のしろ白神の道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

太平山パーキングエリア活用イベント

実施日時 平成30年4月28日(土)
頻度 毎年一回
活動場所 秋田自動車道 下り 太平山PA
参加人数 約500人

【目的】

内装に秋田杉をふんだんに使用した太平山PAで木材利用や地域の魅力を発信し、秋田県北・能代山本地域への観光誘客を目的とした活動。

【実施内容】

秋田杉製品や味噌たんぼ等地域の物産販売、秋田杉製ベンチ等による休憩コーナーや秋田犬ふれあいコーナーの設置、高速道路や観光の情報提供、高速道路施設における木材利用や高速道路整備に関するアンケートの実施。

【アピールしたいポイント】

- 高速道路休憩施設での木材利用と活用提案
- 秋田県北・能代山本地域への誘客や情報提供を目的に連休初日に下り線で実施。
- イベント効果をあげるため秋田犬コーナー設置
- アンケート回収率をあげるため回答者へ花苗や秋田スギアロマオイルをプレゼント。



▲屋台や秋田スギベンチ等によるおもてなし空間



▲観光パンフレットの配布や観光案内



▲秋田杉木工品の展示販売



▲来場者へのアンケート



▲大館市マスコットキャラクター はちくん



▲秋田犬ふれあいコーナー

1.のしろ白神の道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

木製防護柵塗装イベント

実施日時 平成30年9月2日
 頻度 毎年一回
 活動場所 国道7号
 (能代港入口交差点～豊祥岱交差点)
 参加人数 約20人

【目的】

「木の香る道づくり」の一環として国道7号沿いに設置されている木製防護柵の耐久性向上と景観美化を目的とした活動。

【実施内容】

市広報や沿線の学校訪問等を通じてボランティアを募り、1区間7メートル程度の木製防護柵を1組2時間ほどかけて塗装。

【アピールしたいポイント】

- 子供から大人まで幅広い世代が参加できる簡単な作業ながら、メンテナンスが木材やインフラの長寿命化につながる事が理解できるイベント。
- 参加者には名前入り秋田杉コースターを贈呈。



▲参加者への作業前説明



▲作業状況



▲参加者集合写真



▲秋田杉コースター



▲木製防護柵設置状況

1.のしろ白神の道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

のしろ市民まちづくりフォーラム

実施日時 平成31年2月20日(水)
 頻度 毎年一回
 活動場所 能代市役所 大会議室
 参加人数 約70人

【目的】

市長や市民と共に各地域の先進的な取り組みや考え方を学ぶことにより、知恵を共有し、新たな連携や活動を見出すための活動。

【実施内容】

株式会社まちづくり研究所の今泉重敏氏に西日本を中心とした「まちの駅」の取り組みについてご講演いただいた。
 また、函館市で取り組んでいるシーニックバイウェイ、八峰町での体験型宿泊施設運営、地域資源を活用した観光振興の事例など話題提供をいただき、来場者とともにフロアディスカッションを行った。

【アピールしたいポイント】

- 全国各地の風景街道や地域づくりの先進事例を市長・市民と共に学ぶ一般参加型、無料イベント(13回目)。
- 提示された課題や取り組みを可能な範囲で実施。
- 能代山本地域の景観写真とビューポイントマップを展示し、観光資源の再発見を提示。



▲実施状況



▲参加者とのフロアディスカッション



▲今泉氏による基調講演



▲能代山本地域ビューポイントの展示



▲能代市長の参加



▲三種町長、八峰町長の参加

2.ふくしま浜街道ハッピーロード (H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】ハッピーロードネット
【登録年月日】平成19年12月5日
【中心となる道路の名称】国道6号、常磐自動車道
【道路管理者】・国土交通省磐城国道事務所
・NEXCO東日本東北支社いわき工事事務所

ルート図



2.ふくしま浜街道ハッピーロード (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

未来のまちづくり・みちづくりフォーラム「第1回 高校生が被災地で考える防災サミットin Fukushima」

【目的】

異なる地域性を持つ全国の原子力発電所所在道県の高校生が被災地福島県浜通りを舞台として、最先端の原発の知見と原発と共に生きる地域の現状や課題、道路等のインフラやまちづくりの復旧・整備等の状況を学ぶことで、原発災害を再考し、未来の風景を描きます。これを通して、地域を担うまちづくり人材の育成を促進することを目指します。

【実施内容】

開催日：平成30年12月25日(火)、26日(水)、27日(木)
開催場所：Jヴィレッジ、福島第二原子力発電所・他(視察)
参加者：全国の原子力発電所所在道県の高校生 17校、38名、(うち福島県内は8校、18名)フォーラム参加者：220名
平成30年12月25日(火)：ワークショップ(1)(現地見学含む)、高校生交流会、避難時宿泊体験
平成30年12月26日(水)：ワークショップ(2)、高校生夕食会、リハーサル
平成30年12月27日(木)：ワークショップ(3)、フォーラム、発表内容とりまとめ

【アピールしたいポイント】

地域づくり、まちづくりなどをテーマとした、全国の高校生によるフォーラム、サミットを平成17年度から行っており、平成30年度からは、「防災」をテーマとして取り上げており、福島県内の高校生をはじめ、全国の高校生が防災について学び、自らの地域における課題解決について考えるきっかけづくりを行っている。福島県浜通りで学んだことを子供たちが地元に戻り、地域のリーダーとして活躍することを期待しています。



ワークショップの様子



避難時宿泊体験



フォーラムでの発表

2.ふくしま浜街道ハッピーロード (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

ふくしま浜街道・桜プロジェクト

【目的】

この活動は、国道6号のいわき市から新地町までの総延長163km区間内及び沿線県市町村道に、世界一の桜並木をつくり、地域の魅力を高めようとする取り組みです。震災前のまちづくりフォーラムにおいて、地元で就職したいと願う高校生の「国道6号を美しくすれば企業が来てくれる」との提案を受け企画しました。

地域住民やボランティア等が実施団体となり、道路の法面や緑地帯に桜の植樹を行い作った桜並木を、東日本大震災や原発事故のシンボルとして後生に語り継ぎたいと考えている。また、植樹後はその維持管理も実施し、地域の活性化と「愛するふるさとの復興」を作り上げていく礎となるような環境を整え、浜通り地方に元氣と安らぎを与えられるような道づくりを進めることを目的として約2万本の桜を植える活動を実施している。

【実施内容】

- ・H30.10.19 国際大学 草刈
- ・H30.11.5 榎葉町国道 鎌倉青年会議所、HRN 12本植樹
- ・H30.12.8 青山学院大学草刈 30名
- ・H30.12.15 新地町国道.
- ・H30.12.16 山形県霞城学園高校植樹
- ・H31.2.2 台湾・中国の方草刈
- ・H31.2.24 相馬市国道 相馬高校
- ・H31.3.2 広野町国道 HRN 70本植樹
- ・H31.3.2 双葉町植樹
- ・H31.3.2 Jヴィレッジ、広野町、榎葉町国道
いわき市平第三中学校、いわき・南双葉・浪江青年会議所 120本植樹
- ・H31.3.3 Jヴィレッジ桜植樹(平三中生・JC)
- ・H31.3.8 富岡町植樹
- ・H31.3.15 広野町国道
- ・H31.3.23 いわき市久之浜国道
- ・H31.3.24 広野町桜公園植樹
- ・H31.3.24 東京 佼成中学・高等学校 草刈
- ・H31.3.30 いわき市桜植樹 いわきJC

【アピールしたいポイント】

2013年から開始した桜の植樹も、約1万1千本になりました。この桜植樹の取組は、浜通り地方再生の気運を高め、住民が夢と希望を持ち、健康で生き甲斐のある生活を取り戻すとともに、地域再生の核となる人材を育成するものです。

活動内容も年々ボランティアスタッフが増え、全国からの大学生・高校生も加わり、若い世代の人材育成、人材交流、継続的な活動に対する理解が拡大しています。全国から植樹ボランティアを募集することにより、全国に浜通り復興支援のネットワークが結成されています。

また、桜の成長に合わせて全国から桜見学の問い合わせが多く、桜見学後、浜通りの復興状況を視察するきっかけとなっており、桜植樹参加者のリピーターも増え、桜が波及的に福島復興状況のPR、風評被害払拭に寄与しています。

桜の管理についてはオーナー基金を募集し植栽・維持管理を実施しております。また、平成30年からは桜の維持管理費を賄うためクラウドファンディングに挑戦し多くの方からご支援頂いております。

2.ふくしま浜街道ハッピーロード (H30年度 年間活動報告)



平成30年11月5日(月) 榎葉町の国道6号沿いで、ボランティア植樹を実施しました。公益財団法人 鎌倉青年会議所の方々が桜の苗木12本を植樹しました。



平成31年3月24日(日) 広野町の国道6号で、草刈りボランティアを実施しました。佼成学園女子中学高等学校の生徒25人が、桜の周りの草刈りを行いました。



平成31年3月3日(日) 広野町・榎葉町 Jヴィレッジで、ボランティア植樹を実施しました。いわき市平第三中学校の生徒といわき・南双葉・浪江青年会議所の方々が桜の苗木120本を植樹しました。

2.ふくしま浜街道ハッピーロード (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

みんなでやっぺ!!きれいな6国

【目的】

平成19年(2007年)に国道6号環境美化の普及啓発のため、国道6号沿線において子供達と地域の方々と一緒に清掃活動を実施するものである。震災後から一時休止するも、平成27年から再開。

【実施内容】

日時:平成30年10月27日(土)

場所:いわき市～新地町の国道6号沿線

「新地地区」「相馬地区」「南相馬地区」「浪江地区」「富岡地区」「檜葉地区」「広野地区」「いわき市(久之浜P)」

「いわき市(菅波P)」「いわき市(小浜P)」の全10箇所を実施

参加者:地元中学・高校生や青年会議所、復校の携わる企業の方々等
約1600人が参加

【アピールしたいポイント】

「みんなでやっぺ!!きれいな6国」は、地元の中高生、住民、復興事業関係者などにより、桜プロジェクトの舞台となっている国道6号を一斉清掃する活動です。「6国」とは、「6号国道」の略で、福島県浜通りでは国道6号を愛情を込めて「6国(ろっこく)」と呼んでいます。

この活動は震災前から行っており、震災後の再開時には原発事故による放射線の影響を気にする批判的な意見などもいただきましたが、すでに避難指示が解除された地域での活動、子供たちの安全性をPRしながら活動を行いました。



3.みちのくおとぎ街道 (H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】国道113号(二市二町)観光推進協議会

【登録年月日】平成19年12月5日

【中心となる道路の名称】国道113号

【道路管理者】・宮城県
・山形県

ルート



3.みちのくおとぎ街道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

ツール・ドみちのくおとぎ街道「グル麺ライド2018」

開催日：平成30年9月23日（日）

【目的】

「景色」「文化」「食」をキーワードとしたサイクリングイベント。構成市町のご当地麺（南陽市：冷たいラーメン、高島町：ひっぱりうどん、白石市：白石温麺、七ヶ宿町：そば）を食していただきながら、参加者に「また来よう」という動機付けとなるよう、誘客と地場製品の消費喚起を図ることを目的に開催しました。

【実施内容】

- ・「ツール・ドみちのくおとぎ街道実行委員会」設立
- ・専用ホームページの開設
- ・ポスターの作成・掲示
- ・コースの誘導や休憩ポイントでご当地麺を提供していただくボランティアスタッフの募集
- ・コース：高島町をスタートし、七ヶ宿町、白石市、南陽市を經由してスタート地点に戻る約110km
- ・参加人数：451名（最大定員）

〔主催〕ツール・ドみちのくおとぎ街道実行委員会 〔共催〕国道113号（二市二町）観光推進協議会
〔後援〕東北風景街道協議会・山形県・宮城県・高島町物産協議会・たかはたブランド認証事業所協議会



【アピールしたいポイント】

- ・参加者は、各エイドステーションや、休憩ポイントで「ご当地麺」や「おふるまい」（地元産のフルーツなど）に舌鼓を打ちながら地元の方々の「ふれあい」を楽しまれました。
- ・老若男女問わず、ボランティアに協力いただいている。



▲スタート地点（高島町）



▲国道113号（七ヶ宿町）を走行する参加者



▲沿道で手を振る住民とそれに応える参加者（七ヶ宿町）



▲エイドステーションでご当地麺を堪能する参加者

3.みちのくおとぎ街道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

みちのくおとぎ街道スタンプラリー

応募期間：平成30年6月1日～11月30日

【目的】

宮城・山形両県の国道113号沿線二市二町の観光資源を新たに共同でPRし、また観光客の一層の誘客を図るとともに地域の活性化に資することを目的に実施しました。

【実施内容】

- ・二市二町内の該当施設を巡り、1市町につき1箇所のスタンプを押印するスタンプラリー
- ・4つの市町を全て周遊して押印の場合は「二市二町のペア宿泊施設利用券」（抽選で5組）、2つの市町の押印で「二市二町の特産品詰め合わせ」（抽選で30名）を贈呈
- ・ポスター作成、掲示
- ・該当施設（二市二町合計で49箇所）にスタンプラリー用応募用紙の設置
- ・賞品の抽選・発送、参加者からいただいたご意見の集計

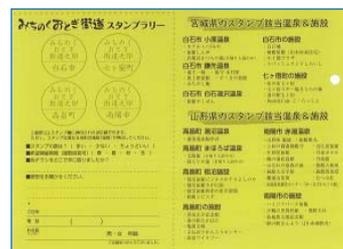
〔主催〕国道113号（二市二町）観光推進協議会

【アピールしたいポイント】

- ・平成22年度から始まり、平成30年度は、北海道・東北を含め20都道府県から応募がありました。（遠方では大阪府、兵庫県、石川県から）前年に続いて応募されたりピーターも多数いらっしゃいました。
- ・応募はがきには、参加者からのご意見・ご感想を記入できる欄を設け、いただいたご意見をもとに、協議会と構成市町においてさらなる誘客と地場製品のPR、新たな観光資源の掘り起こしを図っております。
- ・応募者数：H29 554名、H30 590名（対前年比1.06）と、年々増加しています。



▲みちのくおとぎ街道の二市二町



▲応募用紙の裏面

応募用紙の裏面には、スタンプラリーの対象施設を明記しているほか、ご意見・ご感想を記入できる欄を設けている。

3.みちのくおとぎ街道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

みちのくおとぎ街道 観光振興フォーラムin高島町

開催日:平成30年4月18日(木)

【目的】

構成市町は国内からの誘客とともに、近年はインバウンドの取り込みにも積極的に取り組んでいるところですが、同時に現状以上に効果のあるマーケティングやPR施策を模索していたところでもあります。そこで、国(東北財務局)や自治体、観光の専門家や山形・宮城両県の金融機関が一堂に会して、国内外の観光客誘致の検討・協議を行うために開催しました。

【実施内容】

- ・インバウンド誘致等に向けた取り組みの現状と課題について説明(高島町)
- ・各市町の担当者からは、「我がまち」の見所を有名スポットから知る人ぞ知るスポットまで、また季節毎の魅力を含めて説明
- ・観光の専門家からは、インバウンドを含めた観光客の最新動向や観光客誘致の具体的手法についての説明
- ・金融機関からは、観光振興に向けた支援策の紹介
- ・意見交換

[主催]国道113号(二市二町)観光推進協議会、東北財務局、東北財務局山形財務事務所

【アピールしたいポイント】

- ・国(東北財務局)、観光の専門家、金融機関を含めた協力関係(プラットフォーム)を構築しました。
 - ・フォーラムの実践編とした位置付けで、11月にワークショップを開催しました。
- ワークショップでは、二市二町が企画立案した観光振興策について、金融機関や地元関係者(旅館組合、観光協会、商工会)との意見交換を実施し、観光振興策が民間の実態も踏まえたものに強化され、実効性の向上につながりました。



▲高島町の担当者からの説明状況



▲白石市の担当者からの説明状況



▲観光の専門家からの説明状況

5.桑折宿まちなか街道 (H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】奥州・羽州街道「桑折宿」パートナーシップ

【登録年月日】平成19年12月5日

【中心となる道路の名称】県道333号国見・福島線、町道4004線

【道路管理者】・福島県
・桑折町

ルート図



5.桑折宿まちなか街道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

伊達氏ルートと桑折宿探索ツアー

【目的】

地域の貴重な資源である伊達家発祥の地、奥州・羽州街道の追分「桑折宿」の魅力を、イベントを通じ他地域へ発信し、交流人口拡大により地域の活性化に寄与するための活動。

【実施内容】

県内外から多くの方が訪れる機会を作り、桑折町を知って頂くことにより交流人口の拡大を図ると共に町特産品等のPRにより地域の活性化を図るため、伊達氏ゆかりの史跡めぐり・奥州街道と羽州街道の追分「桑折宿」探索を7回実施しました。
平成30年9月4、5日、10月17、25日、11月10、11日、12月8日実施 参加人数157名

【アピールしたいポイント】

参加者のほとんどの方が宮城県からお越しいただきました。また、郷土料理によるおもてなしでは、会話が弾み交流を深めることができ、感謝のメッセージが多く寄せられました。



5.桑折宿まちなか街道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

郡役所カフェ

【目的】

地域の貴重な資源である街道と旧伊達郡役所の魅力を、イベントを通じ他地域へ発信し、集客をあげることで地域の活性化に寄与するための活動。

【実施内容】

旧伊達郡役所を活用したカフェ及びクラシック演奏、歴史案内等を通して、観光PRを図り賑わいを創出しました。
平成30年10月27・28日実施 来場者数450名

【アピールしたいポイント】

旧伊達郡役所を活用し、桑折宿の歴史案内等を通して、街道の賑わい創出と認知度向上・交流拡大をはかることができました。



5.桑折宿まちなか街道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

桑折駅前イルミネーション

【目的】

地域の貴重な資源である桑折宿の魅力を、イベントを通じ他地域へ発信し、集客をあげることで地域の活性化に寄与するための活動。

【実施内容】

桑折宿の奥州街道と羽州街道の分岐点追分近傍のJR桑折駅前広場をイルミネーションで彩る。
平成30年12月2日～平成31年1月31日実施 来訪者3000名

【アピールしたいポイント】

奥州街道と羽州街道の分岐点追分近傍の桑折駅前広場をイルミネーションで彩り、街道からの回遊により町内外からの訪れる人でにぎわいを創出することができました。



5.桑折宿まちなか街道 (H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

献上桃の郷BBQフェス2018

【目的】

地域の貴重な資源である街道からの回遊と献上桃の郷の魅力を、イベントを通じ他地域へ発信し、集客をあげることで地域の活性化に寄与するための活動。

【実施内容】

街道からの回遊と桃畑を活用した献上桃の郷BBQフェス、観光PRを図り賑わいを創出しました。
平成30年4月15日実施 来場者数900名

【アピールしたいポイント】

街道と桃畑を活用し、街道からの回遊による賑わい創出と、県内外や海外からの参加者があり認知度向上・交流拡大をはかることができ、桃咲くまちに笑顔が咲きました。



9.青森エントランスロード(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】青森エントランスロード景観づくり推進会議

【登録年月日】平成19年12月5日

【中心となる道路の名称】県道27号青森浪岡線、県道120号荒川青森停車場線、 県道18号青森港線

【道路管理者】青森県

ルート図



9.青森エントランスロード(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

街道沿道の植栽活動

【目的】

青森空港から青森市街地へのアクセスルートとなる青森エントランスロードについて、街道周辺の植栽を行うことで、訪れる人々に「青森らしさ」を感じさせ、「県の顔」となる景観づくりを目指した活動を行っている。

【実施内容】

沿道花壇への植栽、沿道樹木の剪定を行った。

【アピールしたいポイント】



10. 巢子の松街道(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】 巢子の松街道パートナーシップ
【登録年月日】 平成19年12月5日
【中心となる道路の名称】 国道4号
【道路管理者】 国土交通省岩手河川国道事務所

ルート図



10. 巢子の松街道(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

松並木の立木の生育状況調査と道路への危険木のチェック

【目的】

歴史ある貴重な松並木の持続的管理に資するために、立木の生育状況調査を継続し、優れた景観と交通安全との調和が図られるように危険木の点検を進める

【実施内容】

盛夏の8月を除く月1回の定例活動日を設定して、午前半日間の立木点検・手入れ・安全チェックなどを実施してきた(荒天時は中止)。参加人員は、1回平均3名ほど。

【アピールしたいポイント】

並木に生育する立木全てに個体番号を付け、それらの生育データを台帳に整備して、以後の並木管理がいっそう確実に進められる。
(台帳の完成までには、あと数年の調査継続が必要)



5月の立木点検活動中



2月冬季の立木調査中



6月植樹箇所の下草刈払い手入れ

11.出羽の古道 六十里越街道(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】出羽の古道 六十里越街道会議
【登録年月日】平成19年12月5日
【中心となる道路の名称】国道112号
【道路管理者】国土交通省山形河川国道、酒田河川国道事務所

ルート図



11.出羽の古道 六十里越街道(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

出羽三山 自然と信仰が息づく「生まれかわりの旅」六十里越街道トレイルランニング大会

【目的】

六十里越街道は出羽三山山岳信仰に利用され、多くの行者が訪れ歩いた信仰の道であり、その祈り自体は「死と再生」という理念が唱えられていました。また一昨年「出羽三山～生まれかわりの旅～」の構成文化財として日本遺産に登録されたことを契機として、その理念を再認識し、街道の持つ歴史や魅力、現代でも通ずる価値観を若い世代の方々にも発信、演出、地域活性化を目的として開催したイベントです。

【実施内容】

平成30年8月、県内初となる『六十里越街道トレイルランニング大会』を開催。初めての大会にも関わらず当日は200名を超える選手が参加。トレイルランニング大会は、個人の部(最大42km)、チームの部(2, 3人組で20km)、親子の部(3km)等の参加者のレベルにあった設定を用意、六十里越街道の魅力や存分に楽しんでもらえるコースを準備しました。完走率は全体で70%弱であり、参加者の皆様からはブナの原生林が圧倒的に多いことや街道の自然環境はもちろんのこと、湯殿山の大鳥居や本道寺の登拝所、信仰にまつわる石碑などの文化的資産にも直接触れながら走ることができる多彩なコース設定に称賛をいただき、満足度の高いコースとの評価をいただきました。

【アピールしたいポイント】

トレイルランニング大会を通じて、全国から集まって頂いた参加者へ六十里越街道の魅力をより広く発信することができましたし、さらには心と体が再生する「生まれかわり」を実感していただく良い機会となりました。六十里越街道を含め、様々な歴史を育んできた「古道」は現代では姿を変え、新しい観光資源の利用方法として一つの指針となったのではないかと感じています。今後も継続して六十里越街道の魅力を発信していくために、関係者が一体となり活動に取り組んでいきたいと思っております。



12.城下町あいづ道草街道(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】城下街会津道草街道推進協議会
 【登録年月日】平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】国道252号、県道湯川大町線、市道幹1-7号線
 【道路管理者】福島県、会津若松市

ルート図



12.城下町あいづ道草街道(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

大熊町&七日町めぐりあいフェスタ

【目的】

風景街道のパートナーシップの構成団体である七日町通りまちなみ協議会が東日本大震災で被災し、会津若松市に避難生活をしている大熊町町民との交流を通じて、七日町の地域の魅力を発信し、活性化を図る目的で開催したイベント。

【実施内容】

開催日：平成30年6月30日／来場者：約650人

①七日町市民広場で大熊町の郷土食「すいとん」と七日町の近郷から収穫された新鮮野菜を来場者に振る舞った。②大熊町の子供太鼓、大熊町商工会女性部による民謡「相馬流れ山」の踊りや会津の幼稚園児による白虎隊剣舞、地元小学生の吹奏楽などを通じて、交流を図った。③4つの空き蔵を修景し、テナントミックスの商業施設に改装した「七日町パティオ」では、大熊町の復興再生計画を図解した「大熊町の現状とこれから」をパネル展示した。

【アピールしたいポイント】

平成30年は会津若松市にとって戊辰戦争150周年の節目の年にあたる。戦災後、たくましく立ち上がった会津若松市と原発事故で被災された大熊町とは苦難の中から復興再生するという点では共通性がある。この交流イベントは賑わいの創出だけでなく、そうした精神性を確認するとともに地域の魅力を県内外に発信し、復興に向けてあきらめずに取り組むという狙いもあった。城下町あいづ道草街道は8年前から風景街道のルートのひとつである「のしろ白神の道」と交流を図ってきたが、単独のルートのみならず、他団体、他地区との交流を図ることによって、風景街道の存在を示すことができるのではないかなと思う。

大勢の来場者でにぎわった七日町市民広場



会場では「すいとん」を振舞う



大熊町の子供太鼓



12.城下町あいづ道草街道(H30年度 年間活動報告)



13.広瀬川せせらぎ緑道(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】 広瀬川まちづくり倶楽部
 【登録年月日】 平成19年12月5日
 【中心となる道路の名称】 北上市2001019号北上駅鍛冶町線 他
 【道路管理者】 北上市

ルート図



13.広瀬川せせらぎ緑道(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

広瀬川まちづくり倶楽部

【目的】

広瀬川を活かしたまちづくり活動を通して、協働による中心市街地の活性化と景観づくりに資することを目的とする。

【実施内容】

広瀬川清掃活動

実施日時：年間12回（毎月第2水曜日）10時～12時

活動場所・内容、人数：広瀬川せせらぎ緑道 河川の清掃・樹木の伐採 参加人数：年間138名

広瀬川せせらぎ緑道あかりプロジェクト（広瀬川行燈夜祭）

実施日時：平成30年9月29日（土）17：00～21：00

活動場所・内容：広瀬川せせらぎ緑道内で行燈、夢あかりの点灯、市内芸能公演5団体、特別公演（西馬音内盆踊り）
屋台出店など

【アピールしたいポイント】

まちの活性化、飲食店の活性化につなげるため、広瀬川せせらぎ緑道にて年1回行燈ナイトの開催を行っている。



15.弘前まちなか散策街道(H30年度 年間活動報告)

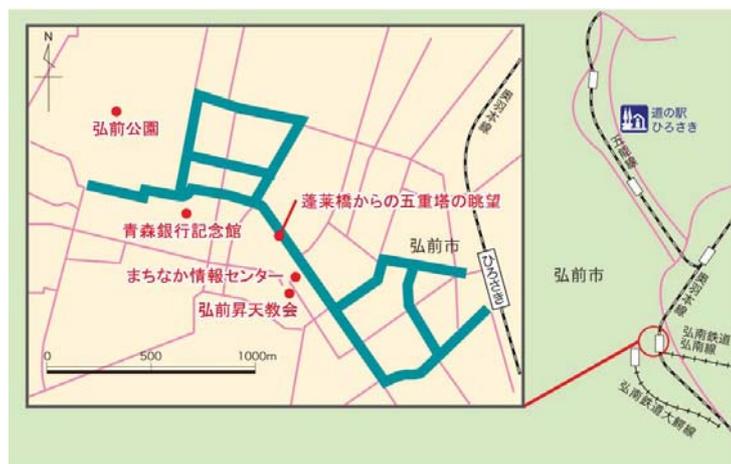
【パートナーシップ名】弘前市中心市街地活性化協議会

【登録年月日】平成20年12月11日

【中心となる道路の名称】県道3号弘前・岳・鱒ヶ沢線、市道駅前広場・土手町線

【道路管理者】・青森県
・弘前市

ルート図



15.弘前まちなか散策街道(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

まちなか桜装飾事業

【目的】

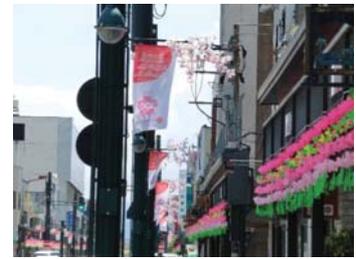
毎年春に開催される「弘前さくらまつり」に合わせて、まつりのムードを高めるために中心市街地の街路灯へ歓迎フラッグを掲示。弘前駅からまつり会場の弘前公園まで、バスやタクシー移動ではなく、まちなかを楽しみながら歩いて散策していただくことで、中心市街地への誘客並びに活性化へ寄与するための活動。

【実施内容】

実施期間：平成30年3月28日から平成30年5月12日まで
 掲示場所：弘前市内中心市街地街路灯319本
 掲示内容：桜造花638本、フラッグ414枚
 ※弘前観桜会100周年事業実行委員会との共催事業として実施

【アピールしたいポイント】

平成30年は弘前観桜会（弘前さくらまつり）が100周年という記念すべき節目を迎えたことから、市内各所に桜の造花が飾られていた大正期（約100年前）の観桜会開催時のまちなかの様子を再現することとし、例年実施しているフラッグ掲示に加えて桜の造花を装飾し、まつり開会前の3月下旬、まだ桜が咲かない時期から「まちなかに桜が咲いている」雰囲気を出した。



16.越後米沢街道・十三峠(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】越後米沢街道・十三峠交流会

【登録年月日】平成20年12月11日

【中心となる道路の名称】国道113号

【道路管理者】・国土交通省 山形河川国道事務所
 ・国土交通省 羽越河川国道事務所、新潟国道事務所

ルート図



16.越後米沢街道・十三峠(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

越後米沢街道・十三峠トレッキング

【目的】

全4回のトレッキングを通して、古の街道である越後米沢街道・十三峠(約47km)をすべて踏破することを目指して、7年連続開催している。

【実施内容】

- ・開催日 第1回 平成30年5月26日(土) 鷹巣峠、榎峠、大里峠(約13.3km) 参加者:17名
- 第2回 平成30年6月23日(土) 萱野峠、朴ノ木峠、高鼻峠、貝ノ淵峠(約10.8km) 参加者:24名
- 第3回 平成30年10月6日(土) 黒沢峠、桜峠、才の頭峠(約11.4km) 参加者:20名
- 第4回 平成30年11月3日(土) 大久保峠、宇津峠、諏訪峠(約12.0km) 参加者:19名

- ・十三峠トレッキングの案内人。
- ・実施状況はホームページ内のブログで紹介した。
- ・毎回、出発、到着場所からバスによる送迎を行っている。

[主催] NPO法人 ここ掘れ和ん話ん探検隊 [共催] NPO法人 おぐにスポーツクラブYui
[後援] 越後米沢街道・十三峠交流会、小国町森林体験観光推進事業



【アピールしたいポイント】

- ・4回すべてに参加した方には、「全峠踏破証」と副賞をお贈りしている。(平成30年度は8名が踏破達成)
- ・トレッキングの状況は、毎回ブログで紹介しているほか、動画(Youtube)でも配信している。
- ・地元の案内人が歴史や街道の魅力について説明している。
- ・街道の素晴らしさに恋をして、リピーターとなる。



トレッキングの状況



諏訪峠での集合写真



全峠踏破証と副賞

16.越後米沢街道・十三峠(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

宇津峠歩こう会

開催日: 平成30年5月20日(日), 平成30年10月28日(日)

【目的】

山形県の「山形の宝」に認定された越後米沢街道の宇津峠を地域のみならず、他の地域からも参加者を募り、地域の活性化につなげようとして開催され、今回で15回目。新緑の春と紅葉シーズンの秋に年2回実施している。

【実施内容】

- ・宇津峠の案内人(ガイド)として、頂上の道普請供養塔などの史跡やイザベラ・バードが歩いた峠道をトレッキングした。
- ・イザベラ・バードが来日して140年目の節目の年のため、秋の歩こう会では、コースの出発地点に記念碑を建立した。
- ・秋の歩こう会では、地域資源「宇津峠」の価値を体験学習するワークショップを同時に開催した。
- ・開催案内や実施状況は、専用のホームページやブログで紹介した。
- ・参加人数: 春24名、秋82名(うち、地元の小学生23名)

[主催] 宇津峠歩こう会実行委員会
[後援] 十三峠交流会、飯豊町、飯豊町教育委員会、西部地区公民館

【アピールしたいポイント】

- ・秋の歩こう会は、「宇津峠」の価値を体験学習するワークショップを同時開催したため、地元以外からも参加していただき、山形新聞にカラー写真付きで掲載された。
- ・飯豊町の広報誌(5月号)に平成29年に作成した「宇津峠の史跡」が掲載された。



秋の宇津峠歩こう会の集合写真



建立されたイザベラ・バードの記念碑



↑山形新聞(10月29日)



広報「いいで」(5月号)→

16.越後米沢街道・十三峠(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

黒沢峠祭り

開催日：平成30年10月28日(日)

【目的】

山形県の「山形の宝」に認定された黒沢峠には、江戸時代に敷かれた約3600段の敷石が今も残っており、先人の残してくれた遺産を一人でも多くの人に知っていただこうと開催され、今回で32回目。

【実施内容】

- ・黒沢峠トレッキングの案内人。トレッキング中はクイズを出題し、正解者には景品を贈った。
- ・トレッキング後は、バーベキュー、カラオケ、丸太切り競争、抽選会などで参加者の交流を深めた。
- ・焼きそば・漬物・餅などの軽食の出店
- ・開催案内や実施状況は、専用のホームページやブログで紹介した。
- ・参加人数：143名

[主催] 黒石峠敷石道保存会、黒沢公民館

[後援] 小国町、小国町教育委員会、小国町観光協会、小国町文化協会、(株)高橋工務店、安部工業(株)



【アピールしたいポイント】

- ・苔むした敷石を踏みしめ、古の旅人の思いが伝わってくる街道。
- ・交流会では、アルコールも入り、知らない人ともなごやかに峠談義に花を咲かせることができる。
- ・小国駅からバスの送迎があり、車が無くても参加できる。



▲敷石を前にした集合写真



▲バーベキューの状況



▲丸太切り競争の状況

16.越後米沢街道・十三峠(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

大里峠越え交流会

開催日：平成30年10月14日(日)

【目的】

大里峠は、山形県小国町と新潟県関川村を結ぶ峠で、人、物の交流を支える重要な道として利用されてきました。「大里峠越え交流会」は、小国町民と関川村民が一緒に旧米沢街道を歩き、往時を偲び、大里峠の豊かな自然や歴史とふれあいながら、交流を深めることを目的に毎年、秋に開催され、今回で25回目。

【実施内容】

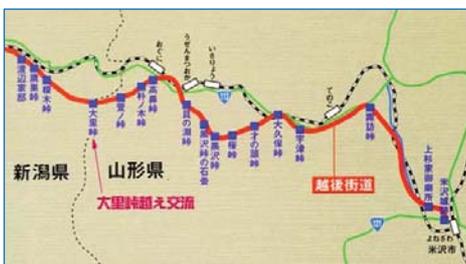
- ・案内人(ガイド)の説明を受けながら、大里峠をトレッキングした。
- ・頂上では、参加者が持ち寄った折り鶴を奉納した。
- ・トレッキング後は、小国町側で大里鍋を囲んでの交流会を実施した。
- ・飲み物や軽食の出店も行った。
- ・「大蛇伝説」の紙芝居を披露した。
- ・参加人数：75名

[主催] 大里峠越え交流実行委員会



【アピールしたいポイント】

- ・山頂において神社に折り鶴を奉納し、小国町長と関川村長が友好の握手をするのが恒例の行事となっている。
- ・地元の行政機関(小国町役場・関川村役場)と協働して実施しているため、長期間継続して実施されている。
- ・「大蛇伝説」が有名な大里峠の自然に触れ、楽しいトレッキングができる。



▲「大里峠」の位置図



▲集合写真



▲友好の握手をする小国町長と関川村長

17.釜石「鉄のみち」(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】釜石鉄のみちネットワーク
 【登録年月日】平成20年12月11日
 【中心となる道路の名称】国道283号、国道45号、(主)釜石遠野線
 【道路管理者】・国土交通省三陸国道事務所
 ・岩手県

ルート図



17.釜石「鉄のみち」(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

宮沢賢治詩碑の三陸内連携の推進

【目的】

1925年に宮沢賢治が歩いた三陸沿岸の道沿いに建立されている賢治の詩碑について、そのルート連携を図り、風景街道のコンテンツの多様化を目的としている。活動の主体は大槌宮沢賢治研究会(代表:佐々木格)であるが、「鉄のみち」のルート上に宮沢賢治の詩碑「峠」が建立されている縁で、その詩碑建立活動へ協力した。

【実施内容】

実施日時:2019年3月16日(土) 13:30~ 活動場所:三陸鉄道 大槌駅前
 内容:宮沢賢治詩碑「旅程幻想」の建立 参加人数:40名

【アピールしたいポイント】

今回の詩碑建立の主体である大槌宮沢賢治研究会とは平成28年度に詩碑「峠」を見学に来た頃より協力関係が深まり、大槌宮沢賢治研究会が行う各種イベントへ参加し、開催を支援している。
 大槌宮沢賢治研究会の目的は、三陸内に点在する賢治の詩碑を連携させることで、宮沢賢治という全国的に認知度の高いテーマで三陸全体をつなげることにあり、天文や鉱物、植物などに詳しく賢治と「鉄のみち」周辺の自然や鉱山遺産をつなげ、ルートの来訪者を増やしたいと考えている。



宮沢賢治の詩碑「旅程幻想」
 除幕式 & 祝賀会

大槌
 おおつち OTSUCHI

吉里吉里 KIRIKIRI | 鞠住居 UNOSUMAI

日時: 2019年 3月16日(土) 13時30分~
 場所: 第1部 大槌駅前 (雨天決行)
 第2部 三陸花ホテルはまぎくロビー

* 予約・問い合わせ先 *

ベルガーディア鞍山: 佐々木 ☎0193-44-2544

主催: 大槌宮沢賢治研究会 / 共催: ベルガーディア鞍山 / 後援: 大槌町
 協力: 積善了白社エイト・大槌町南興進進堂・株式会社設計事務所
 釜石鉄のみちネットワーク(日本風車街道パートナーシップ)

18.十和田奥入瀬浪漫街道(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】十和田奥入瀬浪漫街道運営委員会
【登録年月日】平成21年12月18日
【中心となる道路の名称】国道4号、国道45号、国道102号、国道394号
【道路管理者】・国土交通省青森河川国道事務所
・青森県、十和田市

ルート図



18.十和田奥入瀬浪漫街道(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

十和田奥入瀬浪漫街道整備事業(十和田湖シンボル創造事業)

【目的】

日本の宝である十和田湖奥入瀬の玄関口となる十和田奥入瀬浪漫街道をそれにふさわしい景観とし、地域のシンボルに育てるとともに、観光客の誘客促進を図る。

【実施内容】

- ・ 4月23日 午前8時～12時 アジサイ、ヒマワリ植栽(沢田地区) 20人
- ・ 7月12日 午前8時～12時 アジサイ、サルビア、マリーゴールド植栽(奥瀬地区) 30人
- ・ 8月11日 午前8時～12時 花壇の除草(沢田地区、奥瀬地区) 35人
- ・ 10月26日 午前8時～12時 アジサイ剪定(沢田地区、奥瀬地区) 20人

【アピールしたいポイント】

- ・十和田市官庁街から十和田湖畔までの街道全体の拠点景観を整備する(全長40km)
- ・アジサイを主体とした景観づくりをする。
- ・地域全体の取り組みとし、地域のシンボルに育てる。



20.黄花紅の東むつ湾ルート(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】黄花紅の東むつ湾ルート景観づくり運営委員会
 【登録年月日】平成21年12月18日
 【中心となる道路の名称】国道4号、国道279号
 【道路管理者】 ・国土交通省青森河川国道事務所
 ・青森県

ルート図



20.黄花紅の東むつ湾ルート(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

休耕地を菜の花畑に大変身プロジェクト

【目的】

菜の花作付け日本有数の横浜町ですが、R279沿線の菜の花がさみしいため少しでも来客の方々に喜んで頂けるよう休耕地を借り受け、菜の花トラスト会員や一般の方々と手作業で菜の花を咲かせることを目的とし、18年間活動している。

【実施内容】

平成30年9月2日(日)午前10時から12時 なたね播種作業(参加者:15人)と松ハロー(覆土作業)を行う。菜の花トラストが借りている休耕地約2 $\frac{1}{2}$ haのうち1年ごとに1 $\frac{1}{2}$ haづつ菜種蒔きをしている。会員家族の小学生も参加し、ブルーシートの上で播種用菜種と有機肥料を混ぜ、次に小さなバケツに入れ一列に整列し隙間なく蒔いていく。そして、昔は馬に木の枝を引かせて行った覆土作業を汗だくになり人力で行う(松ハロー)。翌年5月には黄色い幸福の花が咲き、作業に参加した方はほとんどその景色を確認に来る。勿論、車上からも見ることができる。

【アピールしたいポイント】

横浜町全体では100 $\frac{1}{2}$ 前後の菜の花畑があり、R279沿いだけでなく隠れたポイントも沢山ある。5月の黄色い景色を見に来るだけでなく、秋の菜種蒔きにも是非興味を持っていただけると嬉しい。出来れば参加を期待。



菜種蒔き作業



松ハロー作業



菜の花畑

21.磐梯吾妻スカイ・レーク・ゴールドライン(H30年度 年間活動報告)

【パートナーシップ名】磐梯吾妻安達太良観光推進協議会

【登録年月日】平成29年4月7日

【中心となる道路の名称】磐梯吾妻スカイライン、磐梯吾妻レークライン、磐梯山ゴールドライン

【道路管理者】 福島県

ルート図



21.磐梯吾妻スカイ・レーク・ゴールドライン(H30年度 年間活動報告)

【活動名称】

磐梯吾妻安達太良観光推進協議会

【目的】

磐梯朝日国立公園内を走る観光道路は、磐梯山や吾妻山などの山岳と五色沼など湖沼群を走り、その雄大で美しい景観は誰もが堪能できる大パノラマであるとともに、豊かな温泉やフルーツ王国の味も堪能できる地域であることから、良好な景観の保全と観光振興を通して活力ある地域をつくり、以て風景の感動と共に味わえる街道づくりを目指すものである。

【実施内容】

- 「磐梯吾妻安達太良周辺ドライブマップ」の作成
夏・秋版、春版 各10万部発行。 イベント出展会場やNEXCO東日本SA・PA、道の駅、県内観光施設等へ配付。
- ホームページ「磐梯吾妻安達太良アクティブガイド」による情報発信(日本語、英語版)
主に磐梯吾妻3ライン周辺を中心とした観光情報、山岳情報等の情報発信を行った。なお、H30年度には英語版も作成。
- 観光誘客イベントによる情報発信
磐梯吾妻スカイライン再開通イベントの開催、県内外の誘客イベントへの出展

【アピールしたいポイント】

- 当観光道路の範囲が4市町村と非常に広範囲であることから、構成団体が互いに連携し、各エリアにおいて事業推進している。
- H30.9 吾妻山の噴火警戒レベルの引き上げにより、磐梯吾妻スカイラインが通行止めとなったが(R1.6.28再開通)、他2ライン及び、温泉などの周辺観光地への影響を抑えるため、火山情報の発信(規制区域外の安全性)や観光PRに努めた。

